

本書の扉を開けて中を見た時「しまった！」と思った。こういう本をナースのために作りたかったと(なんと大それたことを……)。

手前味噌で恐縮ではあるが、以前『図解でわかるナースのためのエキスパート仕事術!』(照林社)という本を当院のナースとともに書いた。現場のマネジャー層が困っている問題を出し合って、その問題に対応する内容で構成したものである。そのなかで、現場の問題としては抽出されなかったが、私がどうしても加えたかった内容があった。それが「思考力」だった。次はこれをテーマに、つまり本書のように構成したいな、と思っていた。やられた……である。

明快なコンセプト・構成・内容

本書のコンセプトはすっきり明快である。専門職としてのマネジメントスキルで重要なのは、本書が「基礎力」としてあげている3点。第1に自己認識力、第2に思考力、そして第3に対人力、なのだ。

今、激流の中に放り込まれた医療・看護界にとって、まさにこの3点セット、コアスキルが必要なのである。人一倍、一所懸命に仕事をしているにもかかわらず「現象の海におぼれそうになっている」看護師たち。この3つのスキルを自己のなかに、また組織に取り入れ、現場を改善していかなければ、やがて力尽きて荒海におぼれていく。

本書の構成にも唸ってしまった。パート1では、前述した3つの基礎力のサマライズがある。

1)自己認識力では、メタ認知について言及している(6頁)。自分自身を自分で認識する客観力、さらに俯瞰する力、部分

ばかりに突入し全体像が捉えられない、まさに看護に重要な自己認識力である。2)思考力では、「論理的思考力」と「創造的思考力」の違いについて(8頁)、これまた明快だった(私としては、できれば演繹的思考と帰納的思考法はこの部分に入れてほしかったと思うのだが……)。3)対人力では、コミュニケーション能力をインプットコミュニケーションとアウトプットコミュニケーションに分け、後者が不足していることに嫌でも気づくようになっていく(11頁)。

その後にはパート2「自己認識力」、パート3「思考力」、パート4「対人力」と、それぞれの基礎力の詳細をたどっていくことができるようになっている。コラムでワンポイントアドバイスがあり、章の最後にブックガイドがあるのも、読者の気持ちを読んで。

「看護」を中心に据えたビジネス書

看護実践能力という、看護を基盤にした能力を踏まえたうえで、専門職業人、つまりビジネスパーソンである看護師のビジネススキルについて使いやすいパッケージで提示する、という本書の狙いは見事に当たった。現代の悩める看護師たちの座右の書としての資格あり、である。

そして「シンプル」かつ「印象的に」という著者らのコンセプトは、周囲の霧が晴れて「これだ!」と徐々にナビゲートされるうちに、読者のなかに自然に入り込んでくる。単なるビジネス書とするのではなく、中心に看護を据えたパッケージに仕上がっているからであろう。危機的状況の看護界に必須の、時宜を得た実践と理論の統合の書である。

看護師のための ビジネス スキル

北浦暁子 大串正樹

報告書の基本的な書き方とは・・・
ビジネスメールの常識とは・・・
論理的に思考するとは・・・
ということなのか・・・
いまさら聞けない仕事の基礎体力をつけたいあなたに
医学書院

看護師のための ビジネススキル 組織人としての仕事の基本

北浦暁子、大串正樹著
定価 2310 円
(本体 2200 円 + 5 %)
医学書院
TEL. 03-3817-5657

現代の悩める看護師たちの 座右の書として

陣田泰子 聖マリアンナ医科大学病院副院長・看護部長

評
BOOK